

第40回東京女子医科大学・神経懇話会

日 時：2012年6月19日（火）18:30~20:30

場 所：東京女子医科大学 臨床講堂第二

一般演題 18:45~19:30

座長（神経精神科）西村勝治

1. 重症筋無力症における味覚障害—多施設共同研究

（¹東京女子医科大学神経内科，²慶應義塾大学神経内科，³東京医科大学神経内科，⁴総合花巻病院神経内科）蒲澤千昌¹，清水優子¹，鈴木重明²，増田眞之³，長根百合子⁴，檜沢公明⁴，内海裕也³，鈴木則宏²，内山真一郎¹

2. 成体マウス脳のニューロン新生における Smad4 の関与

（¹東京女子医科大学第一病理，²Department of Biochemistry & Molecular Biology, University of Texas, MD Anderson Cancer Center）川口素子¹，古田泰秀²，山本智子¹，加藤陽一郎¹，澤田達男¹，柴田亮行¹

3. Glucose transporter type 1 欠損症の家族例

（¹東京女子医科大学小児科，²旭川医科大学小児科）伊藤 康¹，小国弘量¹，平野嘉子¹，高橋 悟²，大澤真木子¹

4. 前頭葉腫瘍術後に強迫症状を生じた1例

（東京女子医科大学神経精神科）河野仁彦，坪内麻衣，稲田 健，西村勝治，石郷岡純

特別講演 19:30~20:30

座長（神経精神科）石郷岡純

パーキンソン病の睡眠障害

（東京医科大学睡眠学講座教授，医療法人社団絹和会睡眠総合ケアクリニック代々木理事長）井上雄一

当番世話人：（神経精神科）石郷岡純

共 催：東京女子医科大学，エーザイ（株）

1. 重症筋無力症における味覚障害—多施設共同研究

（¹東京女子医科大学神経内科，²慶應義塾大学神経内科，³東京医科大学神経内科，⁴総合花巻病院神経内科）蒲澤千昌¹・清水優子¹・鈴木重明²・増田眞之³・長根百合子⁴・檜沢公明⁴・内海裕也³・鈴木則宏²・内山真一郎¹

〔目的〕重症筋無力症（MG）で非運動性障害が目目されている。多施設共同研究によりMGの味覚障害を検討。〔方法〕MG320例（男：女=109：211，平均56.7±17.0歳）で味覚障害の有無，抗AChR抗体，抗Kv1.4抗体，胸腺腫，内服（ステロイド，カルシニューリンインヒビター（CNIs））を確認し，味覚障害がある患者に味覚障害の程度，筋無力症状との相関を聴取，血清亜鉛濃度を測定。〔結果〕320例中13例（4.0%）に味覚障害を認め，味覚障害のあるMG13例中，抗AChR抗体は13例，抗Kv1.4抗体は7例で陽性，胸腺腫は9例であった。味覚障害患者は，味覚障害のない患者と比較し，抗AChR抗体（100% vs 75%），抗Kv1.4抗体（53% vs 13%），胸腺腫

（69% vs 22%）が有意に多かった。ステロイド，CNIs内服の有無，亜鉛濃度との関連性は認めなかった。味覚障害は甘味の障害が多く，4例でMG診断に先行，3例で筋無力症状との相関がみられた。〔結論〕MGの味覚障害についての多施設共同研究は本例が初である。味覚障害はMGの非運動性障害の1つとして重要である。

2. 成体マウス脳のニューロン新生における Smad4 の関与

（¹東京女子医科大学第一病理，²Department of Biochemistry & Molecular Biology, University of Texas, MD Anderson Cancer Center）川口素子¹・古田泰秀²・山本智子¹・加藤陽一郎¹・澤田達男¹・柴田亮行¹

成熟した哺乳類の脳ではニューロンは新生しないといわれてきたが，近年の研究により，ヒトを含めた哺乳類の成体脳においてニューロン新生が一生涯にわたっておこり続けることが明らかにされている。主要なニューロン新生の場として，脳室周囲の脳室下帯と海馬歯状回が知られており，とくに脳室下帯は成体脳における最大の